

## 立花ゼミ 脱北者取材

今年の3月、関係者のご協力のもと、都内某所で脱北者の方へのインタビューという非常に貴重な機会を与えて頂くことが出来ました。掲載が遅れてしまい誠に恐縮ではありますが、内容の重要性は全く色あせていないと思いますので、ここに掲載致します。

脱北者の方は流暢な日本語を話されたので、なるべく修正せずにインタビューをそのまま再現しました。なお、脱北者の方および関係者のプライバシー保護と安全のため、内容を一部改変しています。

\*\*\*\*\*

学生：

本日は、インタビューにご協力頂き誠にありがとうございます。早速ですが、山田さん（仮名）のお話を伺いたいと思います。脱北に至る経緯をお聞かせ頂けますか？

山田さん：

去年の4月に東京に着いた。2001年に北から中国へ、息子と一緒に渡ったのです。息子は大学に行っていたのですが、生活が悪く食べ物も粗末で、それで北から出て来た。

夫が亡くなってから、先に中国に行った娘から手紙が来た。「お母さん、そこにいたら死ぬから、弟と一緒に中国に来て」とのことでした。手紙には電話番号と、住所が書かれていた。そうして、2001年に息子と一緒に脱北しました。夜中の2時頃です。冷たい川を渡って。ブローカー無しで、5人の女性と自分の息子、他人の息子と。鴨緑江（おうりょくこう）<sup>1</sup>を渡り、中国へ行った。その時は、脱北するつもりではなく、とうもろこし・油・洋服のある中国に行こうという目的で渡りました。最初は、中国で働いてお金を作って、また北に戻ってくるつもりで北を出たのです。（鴨緑江では）警備兵が犬を連れて30分ごとに通った。その間を見て、ずっと北を出た。5人の中に北を出た経験のある人がおり、それに従った。

私は元々、国境付近の町に住んでいた。豆満江（とまんこう）<sup>2</sup>の近くです。ここは川が広くて渡り難い。そこで友達が、恵山（へサン）という町から鴨緑江を渡るのはどうか？と提案したので、そうしました。実際、渡りやすく、多くの人が渡っている所です。

しかし、結局1週間したら捕まえられてしまいました。というのも、娘は、どこどこまで来たら会える、と手紙に書いていた。脱北してから、朝鮮人集落へ行きました。そこは朝鮮人だけが暮らしている場所で、言葉が分かるので聞いた。そして、娘のいる町までの行きかたを教えられた。それから1週間歩いたが捕まえられたのです。

捕まる前はみんな一緒に歩いていた。そのうち一人の女性は、大学を卒業して数学の先生をしていた頭の良い人です。そんな頭の良い先生でも北では配給くれない、給料くれない、生活できない、食べれない。その先生は他の人のお金を借りて、商売するために町に来た。8、9歳のお母さん同様勉強が良くできる子供を連れていた。ところが、彼女は先生だから商売に不慣れで、騙されて全部とられてしまった。他の人のお金を借りたのに、返せない状態になってしまった。家に帰れなくなってしまった。そ

---

<sup>1</sup>鴨緑江…中国と北朝鮮の国境となっている川の一つ。

<sup>2</sup>豆満江…中国と北朝鮮の国境となっている川の一つで、鴨緑江よりも北側に位置する。

の後は、町から中国にかかる橋を大きいトラックが渡るのですが、子供がそのトラックから落ちたトウモロコシを拾う。それで2人は食いつなぐ。しかし、子供は栄養失調になってしまい、風邪がひどくなり、死亡してしまいました。家がないから、人の家の屋根の下で死んでしまった。お母さんがトウモロコシとりに行っている間のことだったようです。子供亡くなって、商売失敗で家帰れない。彼女はもう中国へ行くしかない。その女性、大学卒だし、子供はいないし、「中国の朝鮮人に結婚する？」と聞かれて、中国に入ってすぐどっかに売られてしまった。「相手は目が悪いけどいいか？」と聞かれたが、「今は何もないから、食事食べられるならそれで良い」と言った。私は、中国人に買われてもよかったが、子供がいたから売られなかった。歩いて娘のところに向かいました。

また、別の若い女性も一人、ブローカーに売られた。それで、結局2人いなくなって、女性3人と子供2人になりました。その5人で歩いている時に、中国の警察官に捕まったのです。彼らは小さいトラックで、北から来た人を捕まえるために1日に2・3回、巡回していた。山の下に狭い道があつて、そこで捕まえられた。あと1週間歩けば娘のいるところだった。北から来た人間は、格好を見ればすぐに分かる。すぐ捕まる。私は、その時リュックサックを持っていた。歩いている途中で一回ラーメンを運んだトラックが倒れてラーメンが落ちたので、食いつなぐためにそれをリュックに入れていた。

中国の警察に「お前達、北から来たんでしょ？」と聞かれました。中国語分からないからすぐ捕まる。翌朝、北朝鮮の国境近くの保衛部<sup>3</sup>に入れられました。保衛部では「どうして中国へいったのか？」と聞かれる。小さな部屋に100人ぐらい入れられる。ご飯も大変。蒸したトウモロコシを1日2回、朝と夜に与えられるだけです。仕事をしなくてもお腹はすいて、死ぬかな、と思ったこともありました。それから保衛部から労働鍛錬隊<sup>4</sup>にいった。

北朝鮮の鍛錬隊は、ものすごく厳しい。栄養失調になって死ぬことが分かっていた。それは息子の友達で死んだ人がいたから知っていた。だから息子にどこどこに家があると言っては駄目だと忠告しました。私の遠い親戚がいたから、その場所へ行け、と言いました。

中国に一週間いた時は、お腹がすいて「ご飯下さい」って言った事もあります。私たちのポケットの中には100元があるだけで、可哀想だと思って10元くれた人がいました。1元だとパンが1つ買える。

保衛部では「お金あるか？」と聞かれます。その時、息子は40元を、なんと靴下の底に縫い付けていた。それで隠す事が出来た。保衛部に一ヶ月もいると栄養失調で立てなくなる。そこではみそ汁もおかずも無い、トウモロコシだけ。死んじゃったら山に遺体を持って行って終わり。ここ出なかつたら死ぬ。だから、その息子の持っていた40元のうち20元を人に賄賂として渡して、保衛部を出た。20元とは、白いお米3キロ分のお金です。白いお米は1キロ7元ぐらい。

息子と一緒に保衛部を出た。逃げなかつたら、そこで死ぬ。若い男で、毛布を切って、5階の窓から逃げようとして、毛布が切れて死んだ人もいた。脱走に成功して逃げた人も、死んだ人もいた。労働鍛錬隊では、アパートの5階に全員入れるんです。そうしないと逃げるから。

学生：

労働鍛錬隊では、どんな事を聞かれたのですか？

山田さん：

中国で韓国人に会ったかを聞く。特に男の子に対しては厳しい。男はお腹すくと泥棒するから雇われな

<sup>3</sup> 保衛部…北朝鮮の秘密警察のこと。

<sup>4</sup> 労働鍛錬隊…北朝鮮にある軽犯罪者を収容する施設の一つである。

い。北には教会が無い。金日成だけが絶対で、神様だから。だから、保衛部で最初に聞かれるのは「教会へ行ったか？ KBS（韓国の公共放送局）を見たか？」です。もし見たと言えば、保衛部の中でももっと厳しい所へ行く。だから、私も教会行ったけど、行ってないと嘘をついた。

学生：  
労働鍛錬隊では拷問を受けましたか？

山田さん：  
女性は、お金を性器に隠していないか検査されます。ぼんぼんやったら、隠していればお金が出る。裸にして、「ぐるぐる回れ」と言われます。お金が出なかったら、ものすごく打たれる。鼻血も、口からも血がでる。妊娠した女性は、足で蹴られる。妊娠7ヶ月になった女性は、お腹をバンバンバンバン蹴って、おろさせられた。他民族である中国人の子供を孕んで帰ってきたのは大きな罪なのです。

学生：  
労働鍛錬隊から出た後は、どうしたのですか？

山田さん：  
北にいたら死ぬからもう一度北を出ると私は思いました。しかし、息子は「出て捕まったら今度こそ死ぬから出ない」と言いました。私の姉が、ある町にいる。そこは田舎だから仕事はたくさんある、だから頼んだ。「1年したらまた来るから、お願い、息子の世話をして」と。そして、ブローカーにお金とタバコをあげて、若い女性2人と私の三人で脱北しました。女性のうち一人は21才で、もう一人は29才でした。

その時は中国で働ける、というのを本当だと信じてついて行った。しかし、電車で遠くまで行くので、「どこ行くの？」と聞いたら、「お前は中国語が出来ないし、中国での身分もないから仕事をして捕まる。旦那もいないのだから、中国人と結婚しなさい。」という事になった。「中国人と結婚して一年位暮らして、中国語を覚えてお金がたまったら逃げれば良い。その時は仕事も出来るはずだ。」と言われました。

ブローカーは商売です。人間売る。中国人は独身男性が多いからです。中国の女性は韓国や日本へ行っている人が多いので。中国人男性は、金を払っても結婚する気持ちはある。そういう人間へ、ブローカーは女性を売る。実際には結婚してから逃げようと思っても逃げられない。トイレも、座る時も一緒。逃げられないよう監視されました。お金もないし、どっちがどっちかわからないし、逃げるのは諦めました。

私の結婚相手の家は、北にもないぐらい汚い田舎でびっくりした。私はそこへ6500円で売られた。本当は、(通常)女性は1万元なのに。私は年をとっていたから、ブローカーは私を7000円で売ろうとしたけど、7000元は高いと言われて結局6500円で売られた。その頃、私は50代でした。

私は少しそこで働いて、お金を作りました。100元ぐらいお金を作って、自転車でちょっと家から出て電話した。北にいた頃から娘の住所と電話番号は分かっていたけど、北には電話がない。それに、やり方も分からないしお金もない。それで、中国へ渡ってからようやく電話が出来ました。初めの娘との電話では、二人とも感極まって泣いて、何の話していいか分からなかった。だから、次は何を話すかメモをした。次の電話で、私のいる場所を教えたら、半年ぐらい待ってくれたらお金を作っていくからと約束してくれました。

そして、実際に半年したらお金7000元持ってきたのです。娘は「お金をあげるから、お母さんを返して下さい」と言いました。初めは、旦那は「返さない」と言いました。お金はいらない。私が欲しいと。そこで、娘が「じゃあ、公安と一緒にいこう。どっちが悪いのか。」と言うと、旦那は引き下がりました。北から来た私もですが、私を買った旦那も公安に見つかると思目なのです。そうして、私は7000元を旦那に渡して娘の所に戻ったのです。

娘は一番可愛い時期に、朝鮮人へ一万元で売られた。結婚先の旦那さんの家族もいい人で、そこで男の子を生んでずっと暮らしていたのです。旦那さんはすごく良い人だけど、ただ年がかなり上でした。でもそんなことは関係ない。娘は、私を迎えに来る時に、2歳の息子も連れて来た。私にとっては孫です。真っ白で。すぐ「パパ、パパ」と言った。

それからはずっと中国のある町で仕事をした。韓国人の留学生にご飯作ってあげたり、赤ちゃんをみたり。娘の家へはバスで2時間ぐらいで行く。日曜日は休みだから遊びに行った。また、中国語を喋れるようになるために、勉強していました。誰も教えてくれなくても、中国人の話の聞いたり、テレビを見たりして、日本に来るときにはベラベラになっていました。

学生：

中国から日本へは、どうやって来たのですか？

山田さん：

中国を出る時は、最初に娘がラオスからバンコクを経由して、韓国に行きました。私は雲南省から山を越えてラオスに行きました。ラオスに着くと、ある人が助けてくれて、ラオスの韓国の大使館に入れてくれた。食べるためのお金、ホテルのお金、全部出してくれた。私は最初、韓国に行こうと思っていたのですが、韓国へ行く為にはバンコクへ行かなくちゃいけない。バンコクには、脱北者を収容する施設がある。娘は、その収容施設にいたので、娘から話を聞いたのですが、こんな小さい部屋に300人入れる。寝る場所が無いので、座って寝る。バンコクは40度もあって暑い。夜も眠れない。シャワーの水もちょっと。エアコンもない。そこに娘は3ヶ月ぐらいいたら、髪もとれちゃった。娘はバンコクからの電話で「このまま生きて韓国行けないかもしれない」と話していた。それで、私はバンコクを経由して韓国へ行くよりは、日本へ行きたいと思うようになりました。

私は、ラオスの大使館で、名前と生まれを書いた時に、母親が日本人だから日本へ行ける事になりました。行きたいなら日本に、このラオスから行ける。それで、日本に連絡したら、戸籍が残っていたので、「これは日本人だ」という事になって、帰れる事になったのです。そこからは日本に飛行機で帰りました。(飛行機は)初めてで、窓から外を見たら怖くて眠れなかった。横の人は寝ていたけど。緊張して、「事故になったらどうしよう？」と不安でした。普通の客として、普通の旅客機に乗った。

学生：

日本から北朝鮮へ渡った時の事を教えてください。

山田さん：

日本を離れたのは、1963年でした。お父さん、お母さん、姉、私、二人の弟の6人で、最初は清津(チョンジン)<sup>5</sup>に着きました。ここでは、お父さんは「いい所へ行く。どのぐらい良いか分からない」と言っていました。でもお母さんの兄弟やおばあちゃんは「行ったらだめだ。北ではみんな同じ服を着て、トウモロコシやジャガイモを食べてる。行っちゃ駄目だ」って言った。お父さんは「違う、ものす

<sup>5</sup> 清津…北朝鮮の港湾工業都市。日本海に面する。

ごい良くなった。勉強も無料でやる。病気も無料で治す」と言いました。(北は) 良いとこだ、良いとこだ、と聞いて、お父さんは正直な人なので本当だと思ったのです。でも船を降りてすぐに嘘だと分かった。当時、私は11才でした。行って1年して、お母さんは泣いていた。

学生：

北朝鮮で、特に驚いた事は何ですか？

山田さん：

洗濯のための水がなくて、真っ黒な水が流れてる川で洗うこと。石鹸固い。シャンプーなんて見たり聞いたりしたこともない。石鹸で頭も全部体洗う。当時は日本もそれほど良くなかったが、それと比べても北は酷かった。ご飯は全部トウモロコシでした。

家は、くれた。私と弟は小学校へ行った。北へ着いてから1年でお父さんが病気で亡くなった。お母さんは、その時ものすごいショックを受けました。最初、北に行く時の約束は、「3年たったら、日本に戻ることもできる」というものでした。日本を出る時は、みんな、3年間いたら日本へ帰れると信じていました。3年だけ住んで、良かったら住み続ける、嫌だったら帰ってくると。日本人は、帰れる日を楽しみにしていた。しかし、お父さんが亡くなって、お母さんが「日本へ戻る」と言う、「帰れるなんて言った事はない」と言われました。お母さんはものすごいショックを受けて、自殺しようかとも思っていました。

しかし、もっと先に日本から北に帰った家族で、親が自殺して亡くなった子供がいました。彼らの父親は飲ん兵衛で家族をみてくれず、母親は川で自殺をしました。その子供のショックは大きかった。4人子供いたけれど、そのうち2人は他の家へ行きました。残った兄と妹のうち、お兄さんが私の家へ来て、「お母さんが自殺した後、家族がバラバラになって、他の二人の妹はどこに行ったか分からない。お父さんも病気で寝たきりだし。私の家族のようになってしまうから、絶対にあなたは死んでは駄目だ。」と助言をしてくれた。「あなたが死んだらこの子供たちはどうするの？4人の子供をどうするの？」と言ってくれました。それで、私のお母さんは気が付いて、頑張って生きることにしたのです。

北では、夫が亡くなったら誰かが働かないと、配給がない。味噌、塩、石鹸、マッチなど、全部配給なしです。配給があったとしても、どうせほとんどつかないマッチだけ。それでも働くと、半年に一回配給の切符が出て、それと交換でそれらの物や学生の使うノートなどがもらえます。私は日本から、消しゴムつきの鉛筆、白いノート、白いタイツなどを持って行ったので、子供たちに珍しがられた。配給の教科書は木の木目が入っているので、日本の白いノートは珍しいのです。

北にいる学生は可哀想だ。いつもお腹がすいている。子供は歩けるようになったら泥棒する。コッチェビと呼ばれます。

学生：

日本人であることで、嫌な思いはしませんでしたか？

山田さん：

日本人は、例え勉強が出来ても、金日成大学には行けない。日本人の子供はスパイと思われて監視される。

学生：

国境近くの町へ移り住んだ後の状況はどうでしたか？

山田さん：

ご飯じゃなくておかゆだけど、食べれた。1990年頃に金日成が死んで、2、3年したら、給料をくれないようになりました。石炭が採れない。お腹がすいて働けない。また、日本人の軍隊がいた頃に作った炭鉱なので、深くまで掘らなくてはならない。朝6時に炭鉱へ入ったら、夜6時まで出てこれない。中は26度ぐらいの暑さ。パンツだけはいてあとは裸で、男は可哀想だった。

炭坑は立って歩ける高さの場所もあるが、這って進む時もある。3m以上の長い木を持って運ぶ。ひとつずつ。帯を締めて。腰が痛かった。頭を上げると背中血だらけだった。天井はデコボコで。その町での労働条件は最悪だった。

鉄鉱石の産地にある町で、お母さんは1975年まで生きた。1975年に、急に病気で亡くなるまで、そこで働いていた。お母さんは私に子供が出来た時に、血圧があがって急に、死んだ。病院に行ったら、血圧が上がってるから仕事をやってはだめだと言われました。私と姉は結婚してたから母のそばにはいなかった。2番目の弟がそばに。もう一人の弟は軍隊にいた。24才の弟のひざの上に倒れて母は死んだ。鼻から血が出て。くも膜下出血だったのかもしれない。お母さんは、ずっと日本に帰りたい、帰りたい、とさめざめ泣いていた。私が日本へ帰った後に会ったおばちゃん達は、北の最悪な状況を聞いて、母が可哀想だと言って泣いていた。

私たちが北に行った時は、GDPは北の方が韓国より上だった。でも、1995年ぐらいから、飢饉が始まった。その頃は朝起きて周りをみると2、3体の死体があるような生活だった。お腹がすいて死んだ人も見ました。三十か四十を過ぎた男性で、子供を連れていて、栄養失調だった。栄養失調の人は顔大きくなってしまふ。どこの人か分からないけれど、顔の大きくなった男性の死体がリアカーで持って行かれた。その子供は、「お父さんのお腹に豆がある！」と言って泣く。服の中にある豆が欲しかったのです。子供は「その豆下さい、豆下さい！」と泣きました。栄養失調になったら豆が良いのです。そして、その豆を子供にあげると、子供はもう泣かない。お父さんの死体を連れて行っても。

また、恵山で10才ぐらいの可愛い顔をした女の子も見ました。歌がものすごく上手だったけど、父が死んだ。それでお母さんと二人で、中国にいる親戚のもとへ渡ろうとしました。お母さんは10人の女性と川を渡る。川底の石はすごく滑る。前の人倒れて、全員死んでしまった。そうして子供は一人ぼっちになった。その子は歌がうまいから電車で歌を歌った。配給のいい軍隊の前で歌って、金を稼いだ。ご飯も少しくれる。そうして女の子は一ヶ月ぐらい暮らしたけど、やはり中国に渡りたくて、恵山にきた。北の電車は、ホームと電車の高低差が大きい。階段を上って入り口に入る。その高低差は、1メートル半ある。人がたくさんいるから、窓から出たり降りたりする。女の子が電車から降りようと思った時、後ろから押されてホームに転んだ。それで足の骨を折って、骨が足首の皮膚の外に出た。だから、女の子は這いつくばりながら進む。手がプルプル、顔真っ黒。そこで私が話を聞いたら、今の話を教えてくれたのです。

2回目に中国へ行く途中で、私がお母さんの女の子をおぶっていたが、やはり自分の事情もあってブローカーもいるので、結局連れていけなかった。顔も洋服も洗って、10円でトウモロコシそばを食べさせて、放置してきた。病院にも行かずにそのまま置いてきたから、今頃死んでしまったかもしれない。病院には行けなかった。病院には薬もないし。違う所から来た人は診てもくれない。その当時は、病院にも薬はないので、自分で薬をもって入院するような状態だった。時には中国の薬。偽物もあるが。

昨日、息子と電話をした。子供が一歳で、まだ立てない。中国なら、お母さんの乳の栄養がなくなっているから、赤ちゃんにお米を食べさせる。でも北にはお米がないから、栄養が無くなっても乳を引き続き飲ませる。娘もお金を送ったが、一歳になってもまだ立てない。お母さんの乳も、1年たったらもう栄

養はでない。お湯でおかゆを作って、それを食べた方がいい、と私言った。今までずっと赤ちゃんが病気があったけど、やっと治ったらしい。

北では携帯が実は使える。中国の携帯を使う。豆満江の近くで商売をしている人は、みんな携帯を使う。国境付近ならば通じる。携帯で電話しているところを見られたら大変だけど。夜は周りに聞こえるからだめで、電話をしてもいきなり息子が電話を切るときもある。また日曜日に、と電話を延期する事もある。中国と北はすごく近い。川を挟んで会話していたりする。そのへんの人は、夜に中国に行って商売をする。また北に戻って来て、葉巻たばこを売る。靴下、鉛筆、洋服、食べ物、石鹸、全部中国のもの。子供たちの鉛筆も。

学生：

40年ほど北で暮らしている間は、何をしていたのですか？

山田さん：

結婚前は、研究所の試験官のような仕事をしていた。勉強したから、いい仕事が出来た。義務教育は11年間で、小学校6年、中学5年。その後、合格したから2年間学校へ行った。

学生：

「金正日万歳」という教育は、飢餓の増えた90年代で変わりましたか？（金崇拜に無理が生じるようにならなかったのかという事）

山田さん：

韓国には、コッチェビがたくさんいるし、学費が払えなくて勉強が出来ない、だから靴磨きをやってる、あるいは歌を歌ってお金下さい・ご飯を下さいと物乞いをしなくてはいけないという酷く貧しい状況だと教えられた。それで、北はそれに比べて良い生活が出来ている。しょっちゅうそう教わった。子供は喋れるようになったら「金日成万歳」と言われる教育を受けています。2才くらいで。みんな金体制を信じている。小さい時は、私も信じていた。

学生：

あなたは、お母さんが日本人だったという事で影響を受けませんでしたか？

山田さん：

母親も恐くて文句を言わなかった。時々は、私に言ったけど。日本に行きたいな、兄弟に会いたいな、親に会いたいな、そのぐらいの文句。親戚でも友達でも、文句は言わない、言ったらすぐに保衛部に連れて行かれるから。

私の旦那さんは、16才で（北へ）帰国した。日本では、総連の仕事をしていた。だから、帰国してからもすぐに大学へ行けた。日本人の帰国者は、日本人とだけ結婚する。そうじゃないと文句を言う事が出来ないから、同じ帰国者同士で結婚する。大学でも、帰国者と飲んだり食べたりする。旦那はその中でも一番年下だった。

凄いい文句を言う先輩がいた。先輩が日本へ帰りたいな、懐かしいなあ、と言ったら、その一緒に喋っていた人の中にスパイがいて、密告された。それで、そこにいた人は皆保衛部に捕まった。だから、私の旦那も保衛部に一年いた。彼は、何も日本について話さなかったけど、先輩の話を聞いてただけで一年保衛部で拷問され、ぶたれた。辛かったと思います。

学生：

夫婦で、奥さんが旦那さんのことを密告する事もあるのですか？

山田さん：

夫婦でも密告しろとは言われるが、本当にやる人がいるかどうかは分からない。友達でも、3人に1人はスパイ。スパイはお金をもらう代わりに、友達と一緒にいる時に、わざと最初から悪いことを言えと保衛部に言われる。スパイは先に悪いことを言って、相手に本当の気持ちを暴露させる。策にはまって悪いことを言ってしまったら、おしまい。お米半キロぐらいが欲しくて、スパイをする。

3人で喋るな、3人で座るな、と北の人は言う。それは、3人いたら必ず一人はスパイがいるから、密告されたら全員が捕まるということ。時々、針小棒大に伝えてお金をもらうスパイもいる。

学生：

北では本当に人を信頼する事は出来ますか？夫婦ではどうですか？

山田さん：

出来ません。私達は帰国者だから、二人で文句は言ったけど。夜は二人で子供が寝た後で喋った。子供には言えない。子供達は小さい頃から北で生活しているから、日本の生活を知らない。親の言う事を嘘だと思う。お母さん駄目だよ、そんな事を言ったら、と怒る。だから、恐くて子供の前でも文句は言えない。

学生：

娘さんが先に脱出した事についてなのですが、どういう経緯だったのですか？

山田さん：

一ヶ月ぐらい私より先に脱北しました。娘の友達が中国に仕事をしに行った時に、ブローカーを見つけ来て。それで、友達是一人で行くのが嫌だから、あちこちに電話をして、私の娘と一緒に脱北することになったのです。私は、働いていたからお金があった。私も一緒に行きたい。でも、娘は「今回脱北するのは初めてだから、若い私は大丈夫だけど、お母さんはやめといて。一度脱北して、道が分かったら、お母さんを連れて行く。」と言った。

脱北するのは、女の人の方が男の人より多い。男は、脱北しても住める場所が無い。働けないし、家に入れてくれない。女性が70%。女性は脱北しても住む場所がある。男性は、買ってくれる人もいない。

学生：

ブローカーは朝鮮人ですか？

山田さん：

北から脱北シラオスへ行って、韓国へ行った男性が、韓国では男性は仕事を見つけるのが難しいので、ブローカーの仕事をする事が多い。韓国人になってパスポートを持っているから、中国へ来てブローカーの商売が出来る。

学生：  
ブローカーの中にスパイはいないのですか？

山田さん：  
聞いた事はない。お金が入ったらすぐに保衛部をやめて、ブローカーになってしまうし。もしスパイがいても、ブローカーとして7000元なんてもらったら、保衛部だって「やめた」ってなる。

ラオスに行った時には、本当に私が日本人かどうかを調査するために来た人がいる。ラオスの収容施設の中に、3人の子供がいた。12才が二人と13才が一人。彼らは両親が死んで、頑張って北からラオスまで来た。そこで捕まえられて、収容施設に入っていた。日本から調査をしに来た人が話を聞いて、お土産を買って、面会した。

警察がご飯をくれないから、一日三回ご飯を運ぶ。その人について中に入って、面会した。でも、子供達は恐くて、ご飯を食べないで泣いていた。明日北に連れて帰ると言われたから。「確かに北へ戻されるかもしれないけど、アメリカ人などもいて助けてくれる人もいるから、そんなに早くに北へは戻されないから、落ち着いて」と、その日本人が言った。その3人の子供は、アメリカでニュースになって、アメリカからお金を持って来た人がいた。（施設側は）子供を北に連れて行くと言ったが、それは実は単なるお金儲けのために騙しただけだった。ラオスから北へ送り返すお金が、大使館には無い。それで、結局子供達は韓国へ行けた。最近はずぐにアメリカが動いて、お金を持って来て助けるケースもある。

娘は、ラオスの大使館の外へ出ては駄目だと言われた。北の人がいて、見つかったら北へ連れて行かれてしまうから。でも、暑くて部屋の中に入れなかったのも、外へ出てしまった。ラオスの大使館の周りは怖い。北へ連れて行かれる事もある。

学生：  
日本語はどこで学んだのですか？

山田さん：  
日本に戻って来た時は何も話せなかった。ラオスにいた時も、日本語が出来なくて、横で通訳してくれた。日本へ帰って来てから勉強を始めたが、元々11才まで日本へいたから、だんだんと思い出した。日本に来てすぐにバイクにぶつかられて足を怪我し、日本語をちゃんと勉強出来なかった。4月から学校に行く予定です。その後はコンピューターも勉強したいと思っています。

学生：  
日本人としての国籍があるなら、山田さんは韓国に行く事が出来るのですか？

山田さん：  
有効期限が10年のパスポートを持っています。事故で足を怪我した時、娘は韓国で一緒に暮らそうと言ってくれましたが、私は11歳まで日本にいたから日本を今離れる気持ちはない。時々娘に会いに行く。

学生：  
北朝鮮では普段どのようなものを食べるのですか？

山田さん：

とうもろこしのご飯、味噌汁、キムチなどです。キムチは10月にたくさん作って、春の5月か6月まで食べる。90年代の一番飢饉がひどかった時は、人によってはキムチも食べられなくなった。私も95年からは材料が高くて作れなくなった。

学生：

北にいる間に、日本の親戚からの仕送りはありましたか？ またその方法は？

山田さん：

日本にはおじさんがいましたが、仕送りはありませんでした。仕送りを受け取っている人もいて、そういう人は良い生活をしていました。普通は郵便局に送られます。食べ物は駄目なので、洋服や現金で。日本の中央郵便局からピョンヤンにだけは送れる。5%取られます。いい洋服などだと取り上げられることもある。

学生：

日本では脱北者であることは伏せているのですか？

山田さん：

もちろん伏せています。息子も母親も姉も死んだことにしているので、怖くて父親の墓にも行けません。北では、私は死んだとは言っていますが私が死んだというのを見た人は当然誰もいないので。

学生：

日本で学校に行く時は韓国から来たといっているのですか？

山田さん：

私は日本の国籍もあるので、それは問題ない。しかし朝鮮総連の人には脱北の事実を知られたら駄目。

学生：

北では、埋葬はどのようにするのですか？ 家族の墓がありますか？

山田さん：

山に土葬します。焼くのは見たことがない。墓があるのは良い方です。どこから来たかも分からない時は、名前も分からないので5、6人でまとめて埋めてしまうこともあります。私のお父さんとお母さんは一緒の墓でした。でも子供たちまでは親と一緒に埋めないみたいです。

学生：

日本から来た人は成分<sup>6</sup>ではどこになりますか？

山田さん：

成分の意味がよく分かりません。

---

<sup>6</sup> 成分…北朝鮮における階級制度およびその階級のこと。北朝鮮は、そのような差別的制度は存在しないとしているが、多くの脱北者の証言がある。

学生：

北朝鮮では大きく3つ、細かくは51に身分が分かれているといわれていますが？

山田さん：

下から2番目くらいです。一番下でなければ。

学生：

結婚相手は成分によって違ってくるのですか？

山田さん：

そうです。ただ帰国者の場合はあまり関係ない。懐かしいな、といったことからもっと言うてはいけない文句も全部言うてしまうので、お互い理解できる帰国者同士で結婚します。帰国者のうち、帰国者同士で結婚する人は90%以上かそれぐらいだと思います。

学生：

ヤミ市場はたくさんありますか？どのようなものが手に入るのですか？

山田さん：

あります。ほとんどが中国製品。野菜などを除いたら全て中国製です。中国で仕入れた物を、北の市場で売るのが一番いい商売。

学生：

山田さんも市場で商売していましたか？

山田さん：

夫が亡くなってからパンを売っていました。箱に入れて上に網をかぶせ、座って売っていました。初めて商売をする人はコッチェビに狙われる。一人が箱を蹴って倒すと、後ろからワッとコッチェビたちが出てきてみんな持って逃げてしまう。だからコッチェビのリーダーに賄賂を渡していました。彼らも暮らすためにそうしていました。彼らは当然学校にも行ってないし、家もないし、親もいたとしても面倒をみてくれない。リーダーは20歳くらいと思う。可哀想なのは小さな子です。

北朝鮮では大学生もお腹が空いている。大学にお金を入れればご飯は出るけれど、味噌汁とキムチだけでは若い人に足りない。だから諦めて帰る人や栄養失調で目が見えなくなる人、病気になる人もいます。

学生：

北では、どのような家に住んでいましたか？

山田さん：

アパートに住んでいました。暖房がないので石炭を燃やしていた。風呂もあつたけれど、下の階に水漏れしていました。テレビと冷蔵庫を持っているとお金持ちだな、という感じ。

学生：

脱北する人は国境線沿いの人が多いですか？

山田さん：

ハムギョンボクト（咸鏡北道）とハムギョンナムド（咸鏡南道）が多い。川が近いので、中国の人が来たり、商売で中国にわたる人が多いので、外の状況を知ることが出来るからです。逆にその奥の、ピョンヤンなどの人は情報が入って来ないので、あまり脱北しない。

学生：

ピョンヤンには、上の成分に属している人が住んでいると聞きましたが、その人達はニュース等は知っているのですか？

山田さん：

幹部や保衛部の人にはニュースを見ています。しかし、テレビは高級品で、ラジオもハンダ付けされているから、限られたニュースしか知ることは出来ません。

学生：

山田さんは、黄長燁（ファンジャンヨプ）<sup>7</sup>が脱北したことを知っていましたか？

山田さん：

北にいる頃は知りませんでした。食料や薬などの支援が、韓国や日本、アメリカ、国連などから来ていることも知りませんでした。北には年一回税金のようなものがある。税金は無い国だから、もちろん「税金」とは言わないけど、（実質的には税金のようなもの）とられます。学校でも子供たちにウサギの皮をもって来い、無いなら金、酒、米、なんでもいいから持って来い、と言われます。名目は軍隊の冬服に入れるからウサギの皮が必要と言いますが、お金になるものなら何でもいいから持って来させられます。持って来ないと家に帰されて、持って来させられる。

学生：

義務教育を卒業した後の思想教育はどのように行われていますか？また、働いていない人についてはどうですか？

山田さん：

朝7時から7時半まで、仕事前に金日成や北朝鮮のことについて教育される。その時にみんなに教えるのは責任者で、彼らが新聞などを使って教育をします。働いていない人も週に1回か2回、研究室の人が来て教育をする。当然それに行かないと大変なことになる。また、一週間の総括をする。誰がいい事やった、誰が悪いことをやった、ということと言わないといけぬ。どんな小さなことでも何か一言言わないといけぬ。

学生：

近所付き合いはありましたか？

山田さん：

ありますが、表面上だけです。気をつけて、本当の気持ちは言えません。

---

<sup>7</sup> 黄長燁…北朝鮮の元高官。チュチェ思想の理論家で、金日成の側近を務めていた事もある。1997年に韓国へ亡命して世間を驚かせた。現在では金正日政権打倒を掲げ、活動している。

学生：

90年代の一番ひどい時期でも本当の気持ちを言わなかったのですか？

山田さん：

どうなるのだろうか、みんな死んでしまうのではないか、などと少し文句は言った。でも金正日と金日成のことは死ぬ間際になっても言わない。これ以上は言えない、という線があります。

学生：

宗教的な行事はありますか？

山田さん：

宗教的な行事は全くない。北朝鮮には宗教が全くありません。

学生：

国境に行きたいですか？

山田さん：

行きたい。家族をおいてきていますから。会えないけれど。ただ、まだ国境に行けるだけのお金が足りません。

学生：

では、北朝鮮に戻りたいとは思いませんか？

山田さん：

戻りたいとは思わない。

学生：

もし体制が崩壊しても北朝鮮に戻りたくないですか？

山田さん：

行ってみたいかもしれません。家族は日本に連れてきたい。親戚にはまた会ってみたい。

学生：

保衛部の人を知っていましたか？

山田さん：

夫が元気だった時は、夫と仲の良い保衛部の人がお酒を飲むと文句を言いに来ました。彼は私たちよりももっとひどい文句を言った。また、保衛部の方は10時になるとカーテンを閉めて映画を見ていると言っていた。

学生：

保衛部の規模はどの程度ですか？

山田さん：

とても大きく、みんないいマンションに住んでいます。中国に出たいと思った時も、保衛部の人間はテレビなどを賄賂として要求するので、彼らはとてもいい暮らしをしています。電車に乗るにも賄賂が必要です。

学生：

軍隊の現状について教えてください。

山田さん：

男なら全員 16 歳になると軍隊に入ります。軍隊では米やとうもろこしをみんな自分で作るので、上の人はそれを持って帰っていい暮らしが出来る。しかし下の方は足りないから泥棒をして鶏や犬、ヤギを盗むから泥棒が上手い。周りの人もみんな「軍隊は泥棒を教えるところだ」と言います。幹部になるためには大学に行きます。軍隊に行き、労働党に所属し、大学に行った人が幹部になれる。

学生：

歴史教育はどのようなものを受けましたか？

山田さん：

アメリカはその名を口に出してもダメなほど悪い国だと教えられた。朝鮮戦争は日曜の朝 6 時に南から攻めてきたと教えられたけど、中国に出て来て、それは違うと知った<sup>8</sup>。歴史については嘘をつくる専門の人がいる。中国に来て初めて嘘だと知りました。

学生：

アメリカは、どうだから悪い、と教わったのですか？

山田さん：

戦争です。戦争でたくさん人を殺して、今北朝鮮が苦しいのもアメリカのせいだと教わりました。

「アメリカ人」とも言っても駄目です。「アメリカノム (奴)」と呼ばないといけません。

学生：

先日ニューヨークフィルがピョンヤンで演奏しましたが、その時の聴衆はどのように感じていたと思いますか？

山田さん：

周りに保衛部の人が出て、どのように言え、と言われるのでその通りにしている。アメリカが内心すごいとはみんな思っているけどそうは言えません。

私も中国に出た初めの頃は、朝鮮族の人に「アメリカ人はいい人だ」と言われても信じられませんでした。でも北で教わった歴史も嘘だと知って、分かりました。金正日に奥さんがたくさんいることも北にいた時は知りませんでした。

---

<sup>8</sup> 朝鮮戦争…1950 年に朝鮮半島の主権を巡って北朝鮮側と韓国側の間で勃発した戦争。北朝鮮軍による砲撃から始まったが、北朝鮮では韓国側から攻めて来たと言われている。

北朝鮮での一番の問題は自由がないことだと思う。

学生：

本日は、お忙しい中大変ありがとうございました。インタビューを終わります。